

苗場山麓 ジオパーク

Vol.
50

振興協議会だより

〔発行日〕 令和3年8月30日
〔発行〕 苗場山麓ジオパーク推進室
〔お問い合わせ〕 025-765-1600



小学5年生集合学習「自然や環境を守るために私たちにできることは？」

7月20日(火)、津南町と栄村の小学校5年生(上郷小学校・芦ヶ崎小学校・津南小学校・栄小学校)の児童約70名が参加し、集合学習が開催されました。始めにドッジビーで体を動かしながら交流し、その後、元世界自然保護基金(WWFジャパン)職員の小森繁樹先生をお招きして「自然や環境を守るために私たちにできることは？」を演題に環境について学びました。

お話は、先生の学生時代に聞いた「私たちは極めて異常な時代に生きていることを忘れてはいけない」という言葉がいつもの生活を見直すきっかけになったとのことでした。

「現在、人類は大量のエネルギー・資源を利用して生きている。快適で豊かな生活は、多くのエネルギーを使うことで成り立っているが、地球が生産、処理する能力を超えており、持続可能な状況になっていない。地球は奇跡の星で、多様な生態系があり、陸地、海、湿地など環境も多様で、そこに生きる生物も多様である。そして、人類は自然から多くの恵みを得ているが、人類が環境を悪化させている。」など、スライドを使い説明してくださいました。

そして、事前に各学校からの質問を受けつけ、それに対しても丁寧に回答していただきました。木の伐採についての質問では、世界的に大規模な森林伐採が東南アジアや南米で行われている実情とともに、消費者である日本も関係していることをお話いただきました。

そして、イノシシやシカ、クマの目撃例の増加と駆除に対する質問には、生態系全体のバランスの重要性と世界的な外来種も含めた生き物の問題についても詳しく説明してくださいました。

環境問題については、CO₂(二酸化炭素)やプラスチック問題が挙げられ、自然が保たれている国には、法制度やレンジャーなどの人材が整備・確保されていること、地域住民の環境意識が高いことを紹介されました。苗場山麓ジオパークでも意識を高めていく必要と自分たちに何ができるか、現状や何が問題なのか知ることが重要で、家庭から排出されるCO₂をいかに減らすことができるかを家族で考えて取り組み、ごみ問題でもプラスチックごみについて考える必要性が語られました。その中で、『プラスチック・スプーンの地球』という本が紹介され、読んでみて欲しいとのことでした。

今回の小森先生の講演は、世界的に環境問題や脱炭素社会など環境教育が積極的に行われてきている世情を踏まえて実施しました。来年度以降も計画し、中学生、高校生にも聞いてもらいたいテーマです。事務局では、今後も継続してこのような学習会を開催して行く予定です。



大地のたからもの～苗場山麓ジオパーク特産商品ご紹介④～



【段丘の華】(精米)(魚沼産コシヒカリ)(津南町認証米) 株式会社 大阪屋商店

ジオストーリー

大量の雪どけ水は、ブナの森から大地に浸透し約40年かけて火成岩で磨かれます。名水と広大な河岸段丘・ほど良い日較差・魚沼の気候・旨みと甘みのあるコシヒカリです。

※苗場山麓ジオパーク振興協議会・商品開発部会事務局では、新規商品の申請について、随時ご相談を受け付けております。

お問い合わせ 津南町役場観光地域づくり課 電話025-765-5454



歩いて楽しむ「トレッキングツアー」～あずき坂編～

ガイド養成講座の歩いて楽しむツアーも、第3回目となりました。今回は梅雨空の下、7月11日(日)、歩いて楽しむ「トレッキングツアー」～あずき坂編～を実施しました。事前のツアー開催のお知らせは、町内広報無線、苗場山麓ジオパークホームページで行っているのですが、今回、6月30日の新潟日報に「秋山郷散策しよう ガイドの解説付き」の見出しで記事が掲載された事で、参加の申込みや問い合わせが急増し、嬉しい悲鳴となりました。申込み開始から2日目で募集人数に達し、止む無く締切となってしまいました。「トレッキング」「秋山郷」というワードが、参加者の方々を惹きつけたのでしょうか？新潟市・燕市・長岡市・小千谷市・南魚沼市など、苗場山麓エリア外から15名の方に初めて参加していただき、認定ガイド4名、事務局1名を合わせて総勢20名のツアーとなりました。



コースは、信越トレイルで開発したコースを歩いた後、あずき坂付近で、そのいわれを始めとした談義に花を咲かせました。あずき坂を下りる途中で雨が降り始めましたが、ブナ林の中を歩いていたためか、傘を差さなくても大丈夫でした。思わぬ雨の恩恵を受け、ブナの幹を伝う流れである「樹幹流」を目の当たりにして、観察を行うことができました。結束集落内では、不動明王堂、結束十二社、佐藤佐平治翁の話題などを紹介しました。また、人気の観光スポットになっている新潟の橋50選の一つ、見倉橋をコースに取り込みました。見倉橋が撮影地として使われた映画やテレビ番組などの紹介をした後、風神、青面金剛、矢平観音に手を合わせ、終点となる萌木の里へ向かいました。アップダウンがあるコースであったため、萌木の里で待機する方も一部出ましたが、無事にツアーを終了することができました。



見倉橋

今年度から、以前のようなジオサイト巡りのみのツアーから、エコ・カルチャー（歴史・文化）への深化を意識したツアーを組んでいます。今後もガイドとの情報共有を図り、隠れた耳寄り情報を取り入れ、楽しく質の高いツアーを心がけていきたいと考えています。コロナ禍により参加者は、ほぼ新潟県と栄村の方に限定されてきていますが、このような時期だからこそ、「ピンチはチャンス」と捉え、有意義なツアーの実施を進めていきたいと思っています。



第1回 栄村ジオ学習 動植物講座を開催しました

7月7日(水) 午前9時半より、栄村自然植物園にて、「苗場山麓の自然を考える会」に所属されている涌井泰二先生を講師にお招きし、夏の動植物講座を行いました。苗場山麓ジオパークエリアには、約1500種もの植物が生育しています。その中で、栄村自然植物園では、長野県指定希少野生植物を含む300種にも及ぶ植物が見られます。しかし近年では、外来植物の侵入による影響やイノシシの食害など、生態系や人間の生活に被害がもたらされ、種の絶滅が危ぶまれています。

園内を散策してみると、ウマノスズクサ（長野県・絶滅危惧Ⅱ類）、コシノカンアオイ（長野県・留意種）、ジュンサイ（長野県・準絶滅危惧種）などの植物や、ヒヨウモンチョウ（長野県・留意種）、モリアオガエル（長野県・準絶滅危惧種）、アキアカネといった生き物が見られました。このような希少なものを含め、多種多様な動植物について涌井先生より分かりやすく解説していただきました。講座を通じて、多様な自然との共生、環境保全について改めて考える入り口となりました。私たちは、豊かな自然環境を維持するために、「何ができるのか」を考え、行動に移し、次の世代に繋げていきたいものです。

※第2回 栄村ジオ学習 動植物講座を今秋10月に予定しています。講師は、苗場山麓ジオパーク専門員の中沢英正さんです。

詳細は、決定次第、ホームページ等でお知らせいたします。



涌井先生の説明



ウマノスズクサ



アキアカネ

認定ジオガイド
が伝える

ここが好きだよジオパーク

認定ジオガイドがおすすめの場所、
もの、ことなどを紹介していきます。

尾池 みどりさん



ここが好き①津南町の不思議な地形（ガイドNo.37 尾池 みどりさん）

住み慣れてしまえば気にならなくなるが、津南町の地形はちょっと不思議である。例えば、国道117号線からニュー・グリーンピア津南へ向かおうとすると、ひとつカーブを上がって、その後もう一つカーブを上がることになる。山の上にあがれば津南原のまっすぐな道を通りホテルへ着く。車で運転する時間は15分から



20分ほどだ。走りなれた地元の人間はなんてことはない距離だが、はじめて車を走らせる人は少しばかり不安になるらしい。山の上に、こんな平たい台地があるとは思わなかった。そうおっしゃる方もいる。中津川を挟んだ向こうには同じような高さの沖ノ原台地があり、平面で見る地形と実際の立体地形はちょっと不思議かもしれない。

清津川を挟んだ、清田山（十日町市）から見る津南原の台地は平たくて、ニュー・グリーンピア津南に向かって少しずつ標高が上がっていく。その真ん中にまっすぐ延びる道の両脇は田んぼで、季節ごとに変わる景色を目で楽しませてくれる。田植えの前の水を張った田んぼは鏡のようだし、夏になれば青々とした稲が風にゆれている。秋になれば一面は黄金色の穂で覆われ、冬になれば雪の壁の間を車が走っている。季節で変わる景色は気付けば一瞬で、カーブを曲がって山の上を車で走るたびに変わっていく。苗場山麓ジオパークのエリアに限らずとも、どこでも見られる農村風景だ。当たり前だけれど、当たり前じゃないと別の目を持つ人は言う。それは観光で訪れたお客様であったり、お仕事で通われる方であったりする。車で走ってカーブを抜けたら山の上に広い台地がある、住み慣れてしまった地元だけれど、不思議でちょっと特別な地域かもしれないと思うと車の運転も少し楽しくなる。



ニュー・グリーンピア津南



谷の展望台（ニュー・グリーンピア津南展望台）
※展望台ご利用の方はニュー・グリーンピア津南
025-765-4611 までご連絡ください。



第7回 苗場山麓ジオパークフォトコンテスト作品大募集！

苗場山麓ジオパーク振興協議会では、第7回苗場山麓ジオパークフォトコンテストの作品を募集中です。部門は「春部門」「夏部門」「秋部門」「冬部門」「暮らし・生活部門」「祭り・伝統部門」「植物・花部門」「学生部門（高校生以下）」です。★応募者本人未発表の作品に限り、1部門につき2作品まで。各作品に解説（200字以内）を付けてください。

- 画像データでの応募・・・データ容量15MB以下で、ファイルサイズ300万画素以上のJPEG形式のものとしします。
苗場山麓ジオパーク公式WEB（<https://naeba-geo.org/photocon/>）よりご応募ください。
- プリント作品での応募・・・2Lサイズの作品の裏面に、苗場山麓ジオパーク公式WEBサイトから印刷し、記入した応募票を貼付してください。作品は、原則返却いたしません。

送付先はこちらまで⇒ 〒949-8201 新潟県中魚沼郡津南町大字下船渡乙835
苗場山麓ジオパーク推進室（農と縄文の体験実習館 なじょもん内）
ジオフォトコンテスト係

※プリント作品の返却をご希望の方は、返却先を明記した着払い伝票と返信用封筒を同封し、1点ごとに「返却希望」と朱書きしてください。

応募締切・・・2021年12月27日（月）17時（郵送での応募は同日必着）

詳しくは、チラシ、または「苗場山麓ジオパーク」の公式WEBサイト（<https://www.naeba-geo.org/>）をご覧ください。

お問い合わせは、苗場山麓ジオパーク推進室・フォトコンテスト係（電話025-765-1600）まで。

入賞した作品の著作権及び版権は主催者に帰属します。

各ジオサイトの迫力ある景観やそれを楽しむ人の姿、ジオサイトと共に暮らす人の伝統文化、行事、ジオサイトに息づく動物や植物のたくましい姿など素敵な作品をお待ちしています。



突撃しよう!となりのジオ便り～下北ジオパークからこんにちは～(下北ジオパーク専門員 石川 智)

下北ジオパークは、本州北端の青森県の中でも特徴的なマサカリ形の下北半島の北部に位置します。下北地域5市町村を範囲とし、面積は陸域約1400km²、人口は計7万人弱（2021年7月）。霊場恐山や奇岩の景勝地仏ヶ浦、日本最大級の広さの猿ヶ森砂丘、毎年競りで市場を賑わすマグロが水揚げされる大間のある地域です。自治体と研究機関、商工観光団体、住民団体からなる協議会が、「海と生きる「まさかり」の大地～本州最北の地に守り継がれる文化と信仰～」というテーマのもと、郷土愛の醸成と地域ブランドの向上を目的にジオパーク活動を推進しています。

下北の大地は、日本列島が大陸縁辺にあった時代に形成された付加体、日本海が誕生し東北日本の土台が形成された頃の火山噴出物、東北日本の山々を形成した約300万年前からの火山噴出物、大地の隆起と海水準変動で形成された平野の堆積物という4つの地質で構成されています。また、南を内湾である陸奥、西と北は日本海と太平洋をつなぐ津軽海峡、東は大洋である太平洋という特徴の異なる3つの海に面しています。ロゴマークには、4つの地質とそれを囲む海が表現されています。

多様な地質からなる下北の大地は、東北日本の形成過程を凝縮したものといえます。また、生態系は本州最北という地理条件の影響を受けたものも多く、津軽海峡を渡れなかった動物（ニホンザルやツキノワグマ、ニホンカモシカなど）の生息北限であったり、寒冷気候・高山を好む植物（シラネアオイなど）も低標高で見られたり生育北限となっています。文化の面では、陸上交通では行き止まりに見える一方で、日本海と太平洋をつなぐ航路や北方への海上交通の中継地として賑わっていた影響が見られます。江戸後期から明治にかけて北前船で搬出された海産物やヒバ材は京の都で活用され、下北には歌舞伎や山車文化が伝わり現在まで残っています。

特徴の異なる3つの海の豊かな海産物、火山由来含め泉質多様な温泉、本州最北・半島ならではの「端っこ・キワ」の景観など、観光としても魅力満載。コロナ明けのジオパーク巡りを、本州最北の下北からスタートしてみませんか？



仏ヶ浦



北限のニホンザル